

第19回「花粉の少ない森づくり運動」推進委員会

資 料

資料1	「花粉の少ない森づくり運動」推進委員会について	P1
資料2	花粉の少ない森づくりの主要な取組	P2～4
資料3	多摩産材等利用拡大の取組状況	P5～8
資料4	試験・研究・調査	P9
資料5	総合的な花粉症予防・治療対策の推進	P10～13
資料6	花粉の少ない森づくり運動の取組状況	P14～17
資料7	花粉の少ない森づくり運動の今後の展開（案）	P18～22

花粉の少ない森づくり

伐 採

植替えと保育

スギ・ヒノキ

花粉の少ない苗木

多摩産材の利用

花粉の少ない森づくり運動

- 「花粉の少ない森づくり」への理解促進
- 都民・企業が協働して取り組む場の創出

PR活動

都民・企業

寄付・森づくり
活動への参加



「花粉の少ない森づくり運動」推進委員会

- 「花粉の少ない森づくり運動」の推進に関する意見・情報の交換
- 都民に対する普及・啓発活動の検討

「花粉の少ない森づくり運動」の効果的な進め方への提言

	令和5年度の実績	令和6年度の取組状況
花粉発生源対策	○ スギ・ヒノキ林の伐採 ・ 伐採実施面積 36ha ・ 平成18年度～令和5年度伐採実施面積（累計） 783ha ○ 間伐・水の浸透を高める枝打ち ・ 間伐実績 441ha、枝打ち実績 97ha ・ 平成18年度～令和5年度間伐実績（累計） 9,531ha - 枝打ち実績（累計） 2,583ha	○スギ・ヒノキ林の伐採 ・ 伐採予定面積 65ha ○ 間伐・水の浸透を高める枝打ち ・ 間伐予定面積 625ha、枝打ち予定面積 120ha
	○ 貯木場（青梅市新町）の 管理運営	○ 貯木場の管理運営



主伐事業地



貯木場

	令和5年度の実績	令和6年度の取組状況
多摩産材の需要拡大	○ 多摩産材の利用拡大 ・ 公共施設木質空間創出事業 （令和元年度～） ・ 公共施設への多摩産材利用促進プロジェクト （平成30年度～） ・ 中・大規模木造建築物等の木造木質化設計、施工支援事業 （令和2年度～） ・ 多摩産材利用啓発推進事業（平成24年度～） ・ 木の街並み創出事業 （令和元年度～） ・ 保育園等による木育活動の支援事業 （令和元年度～） ・ 木育体験プログラム （令和元年度～） ・ ウッドシティTOKYOモデル建築賞 （平成30年度～） ・ にぎわい施設で目立つ多摩産材推進事業 （平成28年度～） ・ 国産木材の情報発信拠点MOCTION（モクション）の運営 （令和2年度～） ・ 多摩産材の魅力発信拠点「TOKYO MOKUNAVI」の開設・運営（令和5年度～） ・ WOODコレクション（平成27年度～）・JAPAN ReWOOD（令和4年度～） ・ 多摩産材情報センターの管理・運営 （平成26年度～） ・ 木材利用ポイント事業（令和4年度～） ・ とうきょう森づくり貢献認証制度 （平成24年度～） ○国際的な森林認証の取得 ・ （公財）東京都農林水産振興財団の管理森林におけるSGEC森林認証の運用 ・ 民間事業者の補助実績（新規及び更新・維持） 森林管理認証1件、CoC認証21件	○ 多摩産材の利用拡大 ※資料2参照 ・ 公共施設木質空間創出事業 ・ 公共施設への多摩産材利用促進プロジェクト ・ 中・大規模木造建築物等の木造木質化設計、施工支援事業 ・ 多摩産材利用啓発推進事業 ・ 木の街並み創出事業 ・ 保育園等による木育活動の支援事業 ・ 木育体験プログラム ・ ウッドシティTOKYOモデル建築賞 ・ にぎわい施設で目立つ多摩産材推進事業 ・ 国産木材の魅力発信拠点MOCTION（モクション）の運営 ・ 多摩産材の情報発信拠点「TOKYO MOKUNAVI」の運営 ・ WOODコレクション ・JAPAN ReWOOD ・ 多摩産材情報センターの管理・運営 ・ 木材利用ポイント事業 ・ とうきょう森づくり貢献認証制度 ○国際的な森林認証の取得 ・ （公財）東京都農林水産振興財団の管理森林におけるSGEC森林認証の運用 ・ 民間事業者の都内森林管理認証やCoC認証の取得及び維持に要する費用の支援

花粉の少ない森づくりの主要な取組

資料2

	令和5年度の実績	令和6年度の取組状況
花粉の少ない森づくり運動	○ 花粉飛散時期のPR(令和6年春) ※資料5参照	○ 花粉飛散時期のPR(令和7年春) ※資料6参照
	○ 花粉の少ない森づくり募金	○ 花粉の少ない森づくり募金
	募金実績 43,700,914円 (累計) 598,230,213円	11月末時点
	○ 花と緑の東京募金 (花粉の少ない森づくり分)	
	募金実績 2,313,240円 (累計) 176,477,892円	
	令和5年度 46,014,154円 (累計) 774,708,105円	○ 花と緑の東京募金 (花粉の少ない森づくり分)
	○ 「企業の森」協定締結	○ 「企業の森」協定締結
	・ 2箇所 平成19年度～令和5年度(累計) 39箇所(79.9ha)	・ 1箇所 / 1団体(新規)
	○ 森づくり支援倶楽部	○ 森づくり支援倶楽部
	・ 個人会員 計181名 法人会員 31団体	・ 個人会員 196名 法人会員 30団体(11月末時点)
	○ 九都県市共同での取組を推進 (平成30年3月に第2期10ヵ年計画策定)	○ 九都県市共同での取組を推進
	・ 花粉発生源対策としての森林整備の推進	・ 花粉発生源対策としての森林整備の推進
	・ 地域材利用の推進	・ 地域材利用の推進
	・ モニタリング(飛散量測定及び患者数調査)	・ モニタリング(飛散量測定及び患者数調査)

多摩産材等利用拡大の取組状況

公共利用の促進

◆公共施設木質空間創出事業(令和元年度～)

美術館・博物館等の都関連施設において、見て触れることのできる場所やPR効果の高い場所で多摩産材を用いた什器等を積極的に利用

○実績及び予定

実績：(令和5年度まで) 東京しごとセンター、東京芸術劇場、東京都庭園美術館、都営地下鉄各駅、武蔵野の森総合スポーツプラザ、海の森水上競技場、東京国際クルーズターミナル、東京都パラスポーツトレーニングセンター、都立病院、東京アクアティクスセンター、江戸東京たてもの園、ガブテック東京、多摩産業交流センター等

予定：(令和6年度) 晴海ふ頭客船受入施設(仮称)、ふるさと回帰支援センター等

江戸東京たてもの園



東大和市
木製遊具の設備



◆公共施設への多摩産材利用促進プロジェクト(平成30年度～)

区市町村施設の木造、内装木質化、木製什器の導入、木製遊具の整備、外構の整備を支援

○実績及び予定

実績：(令和5年度) 中野区、江東区、品川区、三鷹市、東久留米市、東大和市、瑞穂町、日野市、八王子市、あきる野市、福生市、大島町、神津島村

予定：(令和6年度) 江東区、品川区、中野区、足立区、八王子市、武蔵野市、青梅市、日野市、国立市、東大和市、清瀬市、多摩市、あきる野市、日の出町、奥多摩町他

民間利用の促進

◆木材利用ポイント事業(令和4年度～)

多摩産材を一定量以上使用した住宅を新築・リフォームした方を対象に、東京の特産物等を交換できるポイントを交付し、多摩産材の需要拡大を促進

令和6年度から要件変更をし、東京ゼロエミ住宅認証を取得した新築住宅及びCO2排出量削減を目的としたリフォーム住宅に対して、交付ポイントを加算

◆中・大規模木造建築物等の木造木質化支援事業(令和2年度～)

都内に建築を計画する民間施設において、木造木質化の設計・施工にかかる経費の一部を補助し、中・大規模建築物での新たな木材需要を創出

民間利用の促進

- ◆ 木の街並み創出事業(令和元年度～)
- ◆ 保育園等による木育活動の支援事業(令和元年度～)
- ◆ 木育体験プログラム(令和元年度～)
- ◆ ウッドシティTOKYOモデル建築賞(平成30年度～)
- ◆ にぎわい施設で目立つ多摩産材推進事業(平成28年度～)
- ◆ 多摩産材利用啓発推進事業(平成24年度～)

にぎわい施設で目立つ多摩産材推進事業
(千客万来施設(6街区))



認証制度

◆国際的な森林認証の取得

近年のSDGsへの関心の高まりや、2050年カーボンニュートラルの実現に向け、今後の取引に認証材を求められることが増えると予想されるため、多摩産材を取扱う事業者による森林認証の更なる取得を推進

※森林認証…適正に管理された森林から産出された木材であることを第三者機関が認証する制度

○(公財)東京都農林水産振興財団管理森林における森林認証の取得

平成28年3月にSGEC森林認証を取得(令和6年6月時点:911.04ha)

○農林水産物認証取得支援事業

森林管理者・製材・木材加工流通事業者等への都内森林管理(FM)認証やCoC(木材加工流通過程の管理)認証の取得及び維持に要する費用を支援し、認証の維持及び認証取得の拡大を推進

◆多摩産材認証制度(平成18年度～)

森林所有者から販売事業者に至る多摩産材の流通過程の関係事業者が登録する認証制度を支援

◆とうきょう森づくり貢献認証制度(平成24年度～)

森づくり活動の実施や、多摩産材を利用した企業や都民等の方々に対し、東京の森づくりへの貢献と、二酸化炭素吸収量及び二酸化炭素固定量を認証

情報発信

◆JAPAN ReWOOD(令和4年度～)

多摩産材を含む日本各地の地域材を活用した家具、小物等、消費財の製品展示会を開催

○令和5年度開催

令和5年8月18日から20日 26都道県連携 来場者:6,257人

○令和6年度開催

令和6年8月17日・18日 28都道県連携 来場者:10,079人

JAPAN ReWOOD



◆WOODコレクション(モクコレ)(平成27年度～)

多摩産材を含む日本各地の地域材を活用した建材や家具などの製品展示会を開催

○令和5年度開催

令和6年1月11日・12日 39都道府県連携 来場者:5,293人

○令和6年度開催

令和6年12月19日・20日 38都道府県連携

WOODコレクション



◆国産木材の魅力発信拠点MOCTION(モクション)の運営(令和2年度～)

多摩産材をはじめとした国産木材の魅力と木材利用の意義を民間企業等へ発信PRする拠点を開設し、共存共栄の視点から国産木材の更なる利用を推進

- ・多摩産材等によるオフィス空間木質化等の常設展示
- ・各道府県向けにレンタルスペースを貸出し、各地の木材を発信
- ・オフィス内装木質化やCLT普及などのセミナーを開催

MOCTION



情報発信

◆多摩産材の情報発信拠点「TOKYO MOKUNAVI」の運営(令和5年度～)

都心部において建築事業者や都民向けに東京の木多摩産材に関する情報発信を行うことで、多摩産材の更なる利用を推進

- ・ 東京の木多摩産材製品の常設展示
- ・ 多摩産材活用に関する相談受付
- ・ 多摩地域の森林、事業者のご紹介
- ・ 多摩産材に関するセミナーやワークショップの開催

TOKYO MOKUNAVI



◆多摩産材情報センターの管理・運営(平成26年度～)

多摩産材の製品情報や調達方法などに関する問い合わせ窓口として開設

多摩産材情報センター



○低コスト森林施業の推進(R1～R8)

花粉の少ないスギのコンテナ苗の生育状況を調査し、従来の植栽苗(裸苗)との比較等を実施



コンテナ苗
(花粉の少ないスギ)

○都産無花粉スギ採種園造成のための技術確立(R5～R9)

多摩地域に適した無花粉スギの供給を目指し、採種園造成のための交配技術の確立と、多様性確保のための新たな無花粉スギ個体を選抜



優良個体候補の
無花粉スギ

○少花粉スギならびに少花粉ヒノキにおける種子の生産性向上試験(R2～R6)

少花粉スギ・ヒノキ由来の種子増産を目指し、種子をより多く生産する品種の選抜や種子の発芽率を上昇させるための試験等を実施



種子を採取する
採種園

○花粉の少ない苗木の円滑な生産支援のための調査(R2～R6)

ミニチュア採種園での管理手法を確立し、採種園関係者へ技術指導を実施



着花促進処理

○施設型採種園における種子生産技術の確立(R7～R11)

外来花粉の遮断や害虫の防除等を目的として設置した施設型採種園において、花粉症対策品種から採取する種子の安定生産を目的とした生産技術を確立



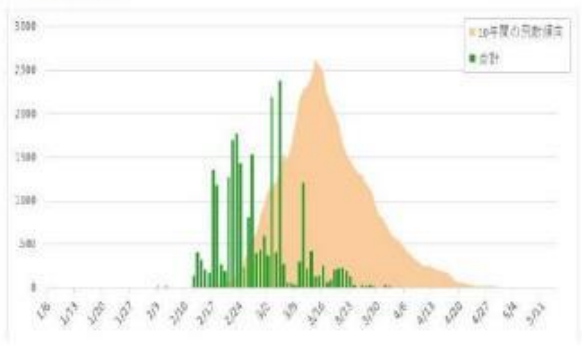
東京都の
施設型採種園

■ 予防・治療のための情報提供(ホームページ)

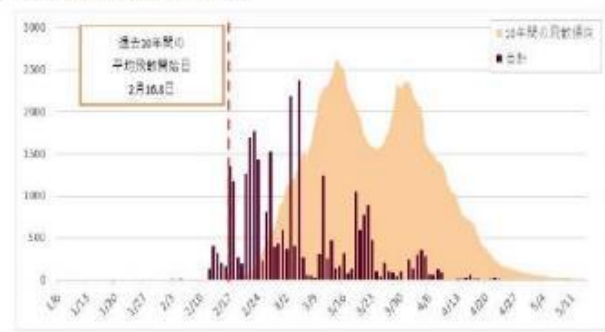
- アレルギー疾患に関する総合サイト
「東京都アレルギー情報navi.」で総合的な花粉情報を提供
 - ・ 各シーズンにおけるスギ・ヒノキの花粉飛散予測を公表
 - ・ 都で観測した飛散花粉の測定結果をグラフ表示
 - ・ 花粉の基礎知識や花粉症の予防対策、
舌下免疫療法等の情報を掲載



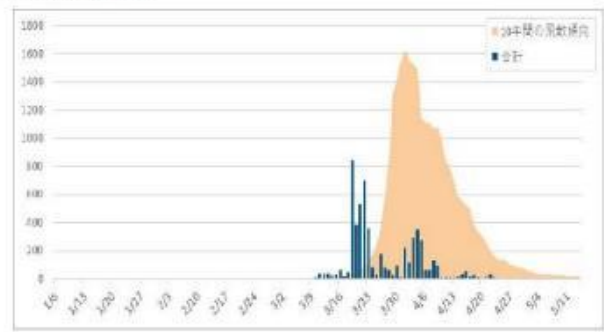
スギ花粉の飛散状況 (個/cm)



スギ・ヒノキ花粉の合計の飛散状況 (個/cm)

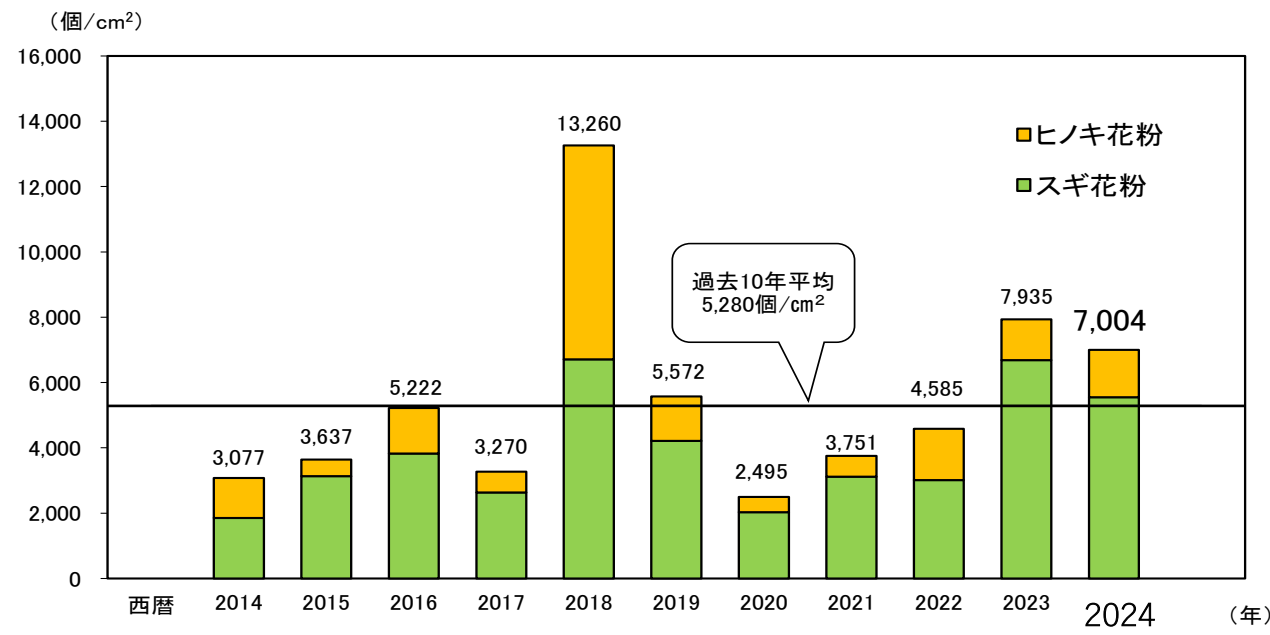


ヒノキ花粉の飛散状況 (個/cm)



■ 今春の花粉観測結果(スギ、ヒノキ花粉)

- 2024年春のスギ・ヒノキの飛散花粉数は2023年春の9割、過去10年間の平均の1.3倍
- スギの飛散花粉数は過去10年平均の1.5倍、ヒノキの飛散花粉数は過去10年平均の9割
- 「東京都アレルギー情報 navi.」で飛散花粉数の観測結果を公表



都内観測地点12か所のスギ・ヒノキ飛散花粉数の平均

■ 花粉症患者実態調査（平成28年度）

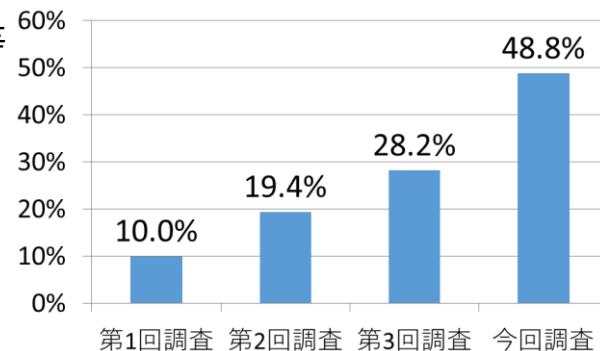
○ 主な調査内容

- ・ アンケート調査（平成28年11月～12月）
今春の鼻炎症状の有無、発症年齢、予防対策、都の花粉症対策への希望等
- ・ 花粉症検診（平成29年3月）
鼻鏡検査、症状等の問診及び血液検査

○ 調査結果（概要）

- ・ 都内のスギ花粉症有病率※は、48.8%
※ 何らかの治療や対策が必要な患者の割合ではなく、
日常生活に支障がない軽症の方も含んだ有病率
- ・ 年齢区分別のスギ花粉症推定有病率は、全年齢層で前回調査より上昇
- ・ セルフケアや医療機関を受診すれば日常生活に支障はない方が約6割

都内のスギ花粉症推定有病率の推移



※各回の調査では有病判定の基準や推計方法に一部変更点があるため、推定有病率の変化を単純に比較することはできない。

【調査実施年度】

第1回：昭和58年度～昭和62年度、第2回：平成8年度、
第3回：平成18年度、今回調査：平成28年度

■ 普及啓発

○ 「花粉症一口メモ」を作成・配布

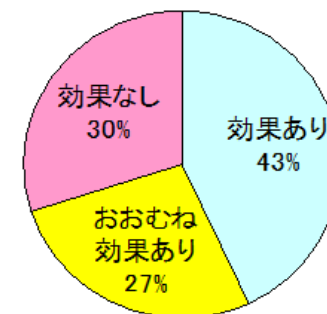
- ・ 保健所や市町村を通じて都民に配布
- ・ 花粉症の基本的知識や自己管理の方法を掲載
- ・ 花粉飛散の仕組みや都が提供している花粉情報についても紹介



■ 舌下免疫療法

研究実施機関 (公財) 東京都医学総合研究所

- 平成18～20年度にかけて、有効性を確認する臨床研究を実施
⇒平成26年10月8日 製薬メーカーより販売
- 平成27年度より、花粉症患者血液を用いて、舌下免疫療法の治療効果の有無を予測するバイオマーカーの実用化研究を実施



治療の効果判定

■ 東京都アレルギー疾患対策推進計画(令和4年3月改定)

- アレルギー疾患対策を総合的に推進することを目的に、「アレルギー疾患対策基本法」が平成27年12月に施行
- 花粉症は、この法律における「アレルギー疾患」の一つとして定義
- 国や地方公共団体が取組むべき施策等を示した「アレルギー疾患対策推進に関する基本指針」が令和4年3月に改正(平成29年3月告示)
- 法に基づき、花粉症対策も盛り込んだ「東京都アレルギー疾患対策推進計画」を令和4年3月に改定(平成30年3月策定)

花粉の少ない森づくり運動の取組状況

都民、企業等から幅広く協力を得るため、「花粉の飛散時期のPR活動」、「募金等」を実施

● 花粉飛散時期のPR活動(令和6年春)

- ◇ イベントの開催
 - ・ TAKAO 599 MUSEUM (PRブース設置、木工教室)
 - ・ 檜原 森のおもちゃ美術館 (PRブース設置、木工教室)
- ◇ 関連イベントへの参加
 - ・ あきしま環境緑花フェスティバル (昭島市役所)
(パネル展示、木工教室ほか)
 - ・ 東京マラソンEXP02024 (東京ビッグサイト)
(パネル展示、記念品配布ほか)
- ◇ 駅貼ポスター
 - ・ 都営地下鉄10駅 (日本橋駅、泉岳寺駅、三田駅、新宿駅、大門駅、馬喰横山駅、九段下駅、神保町駅、巣鴨駅、大手町駅)
- ◇ デジタルサイネージによる動画及び静止画の掲出
 - ・ 都庁第一本庁舎2階エントランスロビー (動画)、
 - ・ 新宿駅西口地下通路 (静止画)、
 - ・ 西新宿エリア内のサイネージ型スマートポール (静止画)



TAKAO 599 MUSEAMでの木工教室



東京マラソンEXP02024

都民、企業等から幅広く協力を得るため、「花粉の飛散時期のPR活動」、「募金等」を実施

● 花粉飛散時期のPR活動(令和6年春)

◇ PRブース・ポスター等の設置

- ・ TAKAO 599 MUSEUM、檜原 森のおもちゃ美術館
- ・ 山のふるさと村（奥多摩町）、木材会館（江東区）
- ・ TOKYO MOKUNAVI、MOCTION
- ・ 木材・合板博物館（江東区）【常設展示】

◇ 都庁第一本庁舎1階中央部アートワーク台座でのパネル展示（保健医療局と合同）



都庁第一本庁舎1階
アートワーク台座におけるパネル展示

● 年間を通したPR活動(令和5年秋～令和6年夏)

◇ 東京マラソンの森 記念植樹イベント 青梅市 植樹体験、トレイルランニング、紅葉ウォーキング

◇ 東京農林水産フェアでのPR 木工体験イベント、丸太切りチャレンジほか

◇ YouTube「東京森づくりチャンネル」での動画配信

◇ X_(旧twitter)、InstagramでのPR

◇ WOODコレクション 2024「JAPAN ReWOOD」におけるブース出展（山梨県と合同）



JAPAN ReWOOD 展示ブース

花粉の少ない森づくり運動の取組状況

都民、企業等から幅広く協力を得るため、「花粉の飛散時期のPR活動」、「募金等」を実施

●「募金等」

令和5年度 46,014,154円 累計 774,708,105円

◇ 花粉の少ない森づくり募金

令和5年度実績 43,700,914円 (累計 598,230,213円)

(内訳)

企業の森	26,140,429円
東京マラソンチャリティ	8,955,320円
パスモ電子マネーによる募金	3,975,525円
一般募金など	4,629,640円

◇ 花と緑の東京募金※

(花粉の少ない森づくり)分

令和5年度実績 2,313,240円

令和5年度末の累計 176,477,892円

※平成28年度6月までは「緑の東京募金」

◇ 企業の森

○森づくり協賛企業による森林整備の推進

- ・ 協賛企業による森づくり費用等相当分の寄附
- ・ 森林整備による環境貢献
- ・ 花粉の少ない森づくり基金への募金

○令和5年度 新規協定締結 2団体

(株式会社東日本銀行、株式会社メタルワン)



第38号
「東日本銀行100周年の森」
(青梅市梅郷)



第39号
「企業の森・メタルワン成長の森(日の出)」
(西多摩郡日の出町)

花粉の少ない森づくり運動の取組状況

都民、企業等から幅広く協力を得るため、「花粉の飛散時期のPR活動」、「募金等」を実施

●「募金等」

◇ 森づくり支援倶楽部

- 会費の一部を森林整備に充当
会員数（R5年度末）
個人181名 法人31団体

- ・会報誌の発行
- ・メールマガジンの配信
- ・木工品等特典の配布



会報誌

◇ 東京マラソンチャリティ

- 東京マラソン・東京レガシーハーフマラソンチャリティ事業を通じた募金活動による募金を活用し、森林整備等の森づくり体験を実施

寄付金額 123,098,515円
(平成24～令和5年度分)

◇ パスモ電子マネーによる募金

- 都営地下鉄構内の自動販売機等でのPASMO売上金の一部を募金に充当

寄付金額 42,515,177円
(平成18～令和5年度分)



◇ キャッシュレス対応の推進

- 従来の募金方法に加えて「花粉の少ない森づくりホームページ」より「クレジットカード決済」での募金受付を実施

- PRイベント等での木工体験の参加費について「PAYPAY」による決済扱いを実施

花粉の少ない森づくり運動の今後の展開(案)

イベント・展示等を通じて、都民・企業等へ「森林の大切さ」、「花粉の少ない森づくり」について普及啓発

花粉飛散時期PR

○親和性のある施設でのPR

- ・ TAKAO 599 MUSEUM、檜原 森のおもちゃ美術館とのコラボイベントとして、多摩産材の木工教室を実施
- ・ 東京都薬用植物園での講座の実施

○イベント等を活用したPR

- ・ あきしま環境緑花フェスティバルのイベント会場においてブースを出展し、森林の役割などの解説パネルの設置や木工教室等を開催

○企業との協働によるPR

- ・ ボックスティッシュの製造・販売企業との協働により、「花粉の少ない森づくり運動」のロゴを掲載したボックスティッシュ製品の販売を企画

○東京マラソンチャリティ事業でのPR

- ・ 東京マラソンEXPOにチャリティ団体としてブースを出展し運動をPR

○デジタルサイネージによる動画・静止画の掲出

- ・ 都庁第一本庁舎2階や新宿駅周辺のデジタルサイネージにPR動画や静止画を掲出



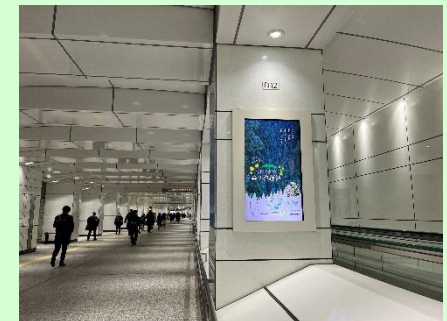
檜原おもちゃ美術館での
イベント実施状況



あきしま環境緑花フェスティバル



東京マラソンチャリティブース



新宿駅4号街路デジタルサイネージ

花粉の少ない森づくり運動の今後の展開(案)

イベント・展示等を通じて、都民・企業等へ「森林の大切さ」、「花粉の少ない森づくり」について普及啓発

花粉飛散時期PR

○展示ブース等の設置

様々な施設において、森林の役割などの解説パネルの展示等により、花粉の少ない森づくり運動を普及啓発

- ・ 山のふるさと村
- ・ TAKAO 599 MUSEUM
- ・ 檜原 森のおもちゃ美術館

○都庁1階中央部アートワーク台座でのパネル展示

花粉症予防・治療に関する基礎情報及び花粉発生源対策の取組について解説したパネルを展示

○ポスター等の掲出

- ・ 高尾ほか各ビジターセンター
- ・ きらぼし銀行
- ・ ECOM駿河台
- ・ 東京都奥多摩都民の森
- ・ 東京都檜原都民の森
- ・ 東京おもちゃ美術館
- ・ 国営昭和記念公園
- ・ 木材会館
- ・ 木材・合板博物館
- ・ 東京都薬用植物園
- ・ 都営地下鉄15駅（巣鴨駅、大手町駅等）

○運動PRポスターのデザインを更新



展示ブース
(山のふるさと村)



木工体験
(TAKAO 599 MUSEUM)



都庁第一本庁舎1階
アートワーク台座におけるパネル展示

【参考】ポスターデザインの更新について

○更新の経緯

- ・令和4年度に開催された本委員会において、「森林の循環（植える・育てる・伐る・使う）を強調し、花粉を減らすためには都民の協力が必要不可欠であることが分かりやすく伝わるようなデザインにしてほしい」といった趣旨の意見をいただいた。

○デザインのコンセプト

- ・ 現行のポスターと比較し、背景に明るい森林を起用
- ・ 何のPRかが目に留まるよう、タイトルを強調
- ・ 若い方にも興味を持ってもらえるよう、柔らかいフォントを使用するとともに、本事業が花粉発生源の削減だけでなく、地球温暖化防止にも寄与することを明記
- ・ 現行のポスターで目立たなかった森林循環のイメージ図をわかりやすく表記



花粉の少ない森づくり運動の今後の展開(案)

イベント・展示等を通じて、都民・企業等へ「森林の大切さ」、「花粉の少ない森づくり」について普及啓発

年間を通したPR

○クレジットカードによる募金の受入れ

マラソンチャリティをはじめ、募金の円滑な受入れを図る。

○東京マラソンの森イベント

森づくり支援倶楽部との共催で森林整備等の体験イベントを実施



東京森づくりチャンネル画面

○森づくり支援倶楽部の運営

会員向け森林体験イベントの開催や会報誌・メールマガジンの発行、木工品の進呈等を通して、運動の啓発と支援の輪の拡大を図る。

○東京レガシーハーフマラソン

チャリティ団体としての参加を通して運動をPR



東京マラソンの森での植樹



森づくり支援倶楽部の
記念品

○とうきょう森づくり貢献認証制度の活用

協賛企業に対して、「とうきょう森づくり貢献認証制度」の申請を積極的にサポートし、森林整備を通じての二酸化炭素吸収量の認定を推進することにより、「森林循環」や「花粉の少ない森づくり運動」への理解促進と意識啓発を図る。



とうきょう森づくり貢献認証度
認定書授与式

○YouTube(東京森づくりチャンネル)により動画配信

花粉の少ない森づくりへの興味と理解の促進を図る。

花粉の少ない森づくり運動の今後の展開(案)

イベント・展示等を通じて、都民・企業等へ「森林の大切さ」、「花粉の少ない森づくり」について普及啓発

年間を通したPR

○PR冊子「森づくりについて考えよう」の活用

希望する小学校や団体等に配布し、地球温暖化対策や森づくりについての授業等で活用

○Instagram、Xによる情報の発信

「企業の森」の四季折々の状況などの配信

○花粉の少ない森づくり運動のHPでの取組紹介

木工体験イベントや「企業の森」森林整備イベント等の情報を掲載し、花粉の少ない森づくり運動の取組をPR

○「花粉の少ない森づくり」募金箱設置によるPR

多摩産材で製作した募金箱をイベント時や都庁舎内に設置し、花粉の少ない森づくりへの支援の一層の拡大を図る。

○企業の森における「森づくり」のイベント支援

企業が実施する森づくりイベントを技術面・安全面でサポート

○東京農林水産フェアでのPR

木工体験イベントや丸太切りチャレンジを通して運動をPR



PR冊子



募金箱
(都庁舎内に設置)